

研究の守破離(1)

春ですね。新入生の皆様、新たな職場に入られた皆様(私もです!)、おめでとうございます。これから4回のコラムを担当いたします。研究推進委員の小菅です。

春だから気分も新たに研究を始めたい!...と思っても、業務に忙殺されて...、子育てが大変で...、中々スイッチが入らない...、分かります。研究をやりたいのに、やらなくてはいけないのに、手をつけられていないこの状況。画面の前の皆さん、どうですか?

私は動機づけの研究をしているので、人が当初のやる気だけでは目標を達成することが難しい現実を知っています(経験的にも)。研究をする、ひいては論文を執筆する、その目標達成までには複数の課題が連続しますし、達成を邪魔する障害も多くあります。例えば以下は最近の研究会や委員会で見聞きした、研究に携わる現場の声です。

【現場の声の例(私調べ)】

- 研究し難いのは既存の尺度を知らないから。新しい尺度本があればと常々思っている。
- キャリア教育では、量と質の両側面での効果測定が必要。得点だけでは分からないことを知るために、自由記述でも回答してもらった。ただ質的な分析が難しく手つかず...
- 論文をいざ書こうとしても、だんだん何を書いているのか分からなくなってしまう。
- 理論の話って研究論文に入れなくてはと思うけど、理論の勉強が難しいし退屈だし、どう取り入れればいいのか...?

上記の声は論文執筆のための様々な困難を教えてくださいますが、どれも知識不足に起因すると考えられます。そしてこれらは研究の「守破離」に関わる問題だと思うのです。

「守破離」とは、武道や芸道において目指すべき修練の過程や段階であり、師の教えを乞う人の取るべき態度や考え方を示した言葉である。はじめは「教えを忠実に守る」、次に「教えを土台として応用する」、そして「教えを土台としない新機軸を見出す」という段階が「守破離」の3語で示されている。

—実用日本語表現辞典

私はこの「守破離」という言葉に出会った時に院生でしたので、自分の在り方を考え直しました。研究とは新しい知見を発表するのだから、既存の枠組みに囚われてはいけないのだ!と息巻いていたからです。そんな私をダメ押しした、関連するもう一つ。

形(かた)を持つ人が、形を破るのが型破り。形がないのに破れば形無し。—無着成恭(僧侶・教育者)

痺れました。震えました。恥の多い生涯を送って来ました。私は形無しだったのです。「研究する」人には、しっかりと研究の理論的基盤や論文の構造を理解しながら、好奇心と柔軟性を持って新たなアイデアを取り入れ、進化と革新を推し進めていく姿勢が求められます。研究推進委員会では、基礎的そして最新の方法論を取得する場としての講習会や本コラムをはじめとした読み物を、皆さんの研究や実践を検討する場としての研究交流フォーラムを、領域を越境して新機軸を見出すキャリア教育カフェを企画しています。どうですか?私、形無しかと思ったあなた、参加したくなかったですよ?今一度問います。

皆さんは型破りですか?形無しですか?

(駒沢女子大学 小菅清香)